

第2回安芸地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日 時：平成22年1月15日（金） 14：00～16：30

場 所：安芸広域メルトセンター

1. 議 事

(1) 全体スケジュール等について

- ・ 21年度の年間スケジュールを説明
- ・ 安芸地域本部の当面のスケジュールを説明

(2) 地域アクションプランについて

1) 21年度の取組の進捗状況について

- ・ 2項目については、計画どおり進捗していないものの、他は概ね順調である旨を説明
- ・ 農業、林業、漁業、観光と、分野別に進捗状況を説明
- ・ 今後の課題を説明

2) 22年度に向けて

- ・ 各項目の修正、22年度の追加項目について説明
- ・ 修正、追加項目が承認され、今後の計画の調整については、座長、事務局の協議に委ねる旨、決定される。

(3) 産業成長戦略について

- 21年度の進捗状況について及び22年度に向けて
 - ・ 農業・林業・水産業・商工業・観光の専門分野を説明
 - ・ 地産地消・外商戦略を説明

《意見交換》

- ・ 修正案はどういった経過で出ているのか。
→アクションプランの実行支援チームでの検討や安芸地域本部会議での検討等により、進捗管理シートに修正をして、フォローアップ会議に提出したもの。
- ・ ユズの搾汁施設が新設されたが、そのユズの搾りかすは産廃になっている。これを堆肥化し農家に回したりと、循環型社会を進める高知県としては推進すべきではないか。
他にも、木質バイオマスなど。
→確かに、年間数千万円のかす処理に費用がかかる。堆肥への需要と供給についても検討していく。また、木質バイオマスは安芸市の建設会社が行うこととしている。
- ・ 「目指すべき姿」の文面修正で、『この特性を企業誘致や』が削除されているが、企業誘致は推進すべきではないか。
→企業誘致しないのではなく、アクションプランの項目に直接、企業誘致がなく、後述で読み含めるといった。取り上げることにする。

- ・同じく『新たな観光資源である「魚梁瀬森林鉄道遺産」や「室戸ジオパーク」を磨き上げ』とあるが、この2つだけでなく、東部地域全体で、時代背景や年代、産業、風土などにまとめた観光にしていけるべき。『歴史文化を』は削除すべきでない。
- 「歴史文化を色濃く残した町並みを誇る」の部分は残す。
- ・資料があちこち点在し、わかりにくい。
- また、ナスの環境保全や備長炭の研修窯など、こういった取り組みか、補助金の割合などの支援はどうなっているのか。
- 環境保全型農業での天敵導入は、ナスに着くコナジラミをハウスの横に生息しているカメムシが食べていることが発見されたことから、県の補助事業として取り上げられている。
- ピーマンでは現在 100%の農家が導入し、成果をあげている。ナス農家も年々増加している。
- 市販品の天敵も共同使用なら補助対象。
- 備長炭に関しては、室戸市と東洋町では原木の入手方法が違う。販売も東洋町は生産組合が、室戸市では生産者個々が、という違いがある。
- 将来は一本化を視野に置いて、量産できるよう人材育成を強化し、2市町が共同体制で取り組んでいけるよう考えている。
- 原木ウバメガシの対策として、ウバメガシが生育する市の所有地や国定公園で伐採できないか、室戸市も組合と協議をしてほしい。
- ・このアクションプランは、具体的に町に何をしてくれるのか。どれくらい補助金を支援してくれるのか。この資料を見ても具体的な数字が記載されていない。実際に物を売ったら、どのくらいになるのか、沖縄県など、上昇中の他県と比較し、数字で示してほしい。
- 食料部門では、地産地消をまともにしているのか。赤字ではないのか。例えば農家で米を1万袋出荷しているのに、その地域のスーパーでは他県の米が高値で販売され、それを買わざるを得ない状況だ。この状況を打破できる、抜本的な戦略はあるのか。このアクションプランは我々への命令なのか。町に対して、実際の金額や数量などの提示がない。
- アクションプランは、地域から提案されたもの。
- 食料品の県赤字（県際収支マイナスの課題認識）は、産業振興計画の策定に当たっての基本となっている。